

今年の飼料用トウモロコシの生育状況を調査しました

令和4年7月19日（火）から8月2日（火）までの計6回、飼料用トウモロコシの「収量調査」を実施しました。今年も豚熱の影響を考慮して、ほ場管理者への事前調査で、ほ場周辺にイノシシが現れていないこと、ほ場が野生動物等に荒らされた形跡がないことを確認したうえで、藤沢市、伊勢原市、平塚市の3地域で実施しました。

県内で自給飼料生産に取り組む酪農家にとって、春に播種し秋までに収穫する飼料作物の中で、飼料用トウモロコシは栄養価が高く、最も多くの収穫量が望める作物です。近年は飼料用トウモロコシを1年に2回栽培し収穫をする2期作を行っている酪農家の方々もあります。1作目は4月上旬頃に播種をして、7月下旬から8月上旬に収穫を行います。そして収穫が終わったらすぐに2作目を播種して、12月上旬頃に収穫をします。今年の収量調査を実施したトウモロコシ畑は多くが2期作の1作目です。人が食べる食用トウモロコシは実だけを収穫しますが、牛は、子実だけでなく、茎や葉もすべて食べるので、トラクター専用の大きなハーベスタ（収穫機械）で、トウモロコシ全体を細かく切断しながら収穫します。収穫したトウモロコシをサイロに詰め込んで密閉することで乳酸発酵し、牛が大好きな「サイレージ」になります。完成した「サイレージ」は2～3ヵ月程経った頃から開封して給与を始めます。栄養価が高く長期保存が可能な「サイレージ」を調製するためには、収穫適期に収穫することが重要です。

そこで当所では今年も「収量調査」（写真1～4）を実施して、子実の登熟具合などから、適期に刈り取れるように栽植本数や生育状況から収量を推定し、次の作付のために情報提供しています。

今年は4月から6月中旬まで悪天候の日が多くありましたが、それ以降の天候が安定して気温も高くなりました。調査結果では、例年に比べて登熟の進み具合は悪くはありませんでしたが、栽植本数が適正に対して少なく、収量が多くない畑も見受けられました。雨続きで作業が滞ったことが原因のひとつと考えられますが、栽植密度の見直しや除草剤の散布等の対策が考えられます。

畜産技術センターでは、収量調査のほか、酪農家の栽培した自給飼料やサイレージの成分分析と、その結果から適切な給与量の助言を行っています。各地域で行われるサイレージ共励会に協力して、酪農家が良質な自給飼料を生産できるよう支援を行っています。



写真1 栽培状況の聞き取り



写真2 生育状況の確認



写真3 雌穂重量の計測



写真4 登熟状況の確認